

専門小委員会における今後の審議の具体的な進め方について(案)①

第2回総会において、諮問事項のうち、まず審議を進め、とりまとめることとされた、「人口減少が深刻化し高齢者人口がピークを迎える2040年頃から逆算し顕在化する諸課題」とその対応について、これまでの委員からの主な意見(3枚目参照)を踏まえ、①追加ヒアリング、②現地調査、③柱立ての議論・とりまとめに向けた議論を行ってはどうか。とりまとめ時期は夏を目途としてはどうか。

① 追加ヒアリング

2040年頃の自治体の姿からバックキャスティング(逆算)での課題の検討に資するよう、比較的確実なミクロの予測(市区町村別の年齢別の人口変化、インフラ老朽化、部門別労働力需給等)、より不確実なマクロの予測(日本全体での技術革新、外国人材活用等)、共・私から見た公の課題等について、追加ヒアリングを行ってはどうか。

② 現地調査

追加ヒアリングではフォローし切れない分野や、各団体の連携の状況・地方創生の取組等を把握するため、1～4月の専門小委員会の合間に、日帰り又は1泊2日で、希望する委員数名と事務局とで現地調査を行い、現地調査の概要は、直近の専門小委員会において、参加した委員から報告をいただくこととしてはどうか。

③ 柱立ての議論・とりまとめに向けた議論

とりまとめに向けた議論は、①・②を行った後に行うこととするが、①・②と並行して、とりまとめ時の柱立てについて、分野横断的なものとしてどのようなものが考えられるか等について、委員間で議論をいただくこととしてはどうか。

専門小委員会における今後の審議の具体的な進め方について(案)②

<追加ヒアリング(案)>

(1回目)未来のまちの姿

【地域の未来の姿】 千葉大学大学院人文社会科学部研究科 倉阪 秀史 教授

【人口減少下のインフラ・公共施設】 東洋大学理工学部建築学科 野澤 千絵 教授

(2～4回目)労働力の未来・技術革新の可能性・「共」「私」から見た未来の課題

【雇用(若者)の未来の姿】【外国人材の受入れ】

【Society5.0】【自治体における技術革新の活用可能性】

【「共」「私」から見た未来の課題】

<現地調査(案)>

日帰り又は1泊2日で、概ねブロックごとにルートを設定

専門小委員会における今後の審議の具体的な進め方について(案)③

分野別ヒアリングを踏まえた総括的議論での主な意見

- 各分野の課題や各地方の連携の状況、自治体の管理部門、外国人材の受入等について、追加ヒアリングや現地調査を行ってはどうか。
- 技術革新の活用、「共」や「私」から見た「公」の課題については、民間団体等からヒアリングを行ってはどうか。
- 情報技術等の分野で、国が全体調整等に関する方針策定や情報提供をどう行うか。AI等について、国において、有効な活用方法や留意事項等を整理する必要。
- 地域ごとの課題を明確にするため、各自治体や広域での人口動態や施設、サービスに関するカルテ(見取り図)をつくってはどうか。
- 年齢や居住地域など、多様なライフコースに応じた2040年までの動きを見通してはどうか。

追加ヒアリング

- 各分野の課題や各地方の連携の状況、自治体の管理部門、外国人材の受入等について、追加ヒアリングや現地調査を行ってはどうか。(再掲)
- 東京圏への人口流出をどう防ぐか。コミュニティ維持の取組をどう広げていくか。
- 諸課題を解決するための仕組みやそれを実行するための仕組みは整っているか、現場目線で整理してはどうか。
- 災害対策など、短期的な状況の変化に応じた行政のあり方をどう考えるか。
- 各自治体の取組をどうすれば両立可能、持続可能にできるか。

現地調査

- 政策分野ごとの課題の全体像を眺めた上で、各府省所管の制度における対応と地方制度における対応を分野横断的に検討してはどうか。
- 政策分野ごとに時間軸が異なる各種計画の下で、どう中長期的に整合性をとっていくか。
- 年齢や居住地域など、多様なライフコースに応じた2040年までの動きを見通してはどうか。(再掲)

柱立ての議論